

はくぶつかんネット

第80号

令和6年8月～10月号

発行：宜野湾市立博物館



第32回 ゐのわんの文化財図画作品展 受賞おめでとうございます！

当館では文化財への理解と保護の精神を培って、愛郷心を育むことを目的として市内の文化財を題材にした「ぎのわんの文化財図画作品展」を毎年開催しています。第32回を迎えた今年度は、10月5日（土）から10月20日（日）の期間に、市内の小学校3年生から中学校3年生の児童生徒が描いた作品を展示しました。今年度は小学校中学年の部（3・4年生）29点、高学年の部（5・6年生）39点、中学生の部28点の計96点の応募がありました。

10月5日（土）には当館ロビーにて各部門の教育長賞、金賞、銀賞、銅賞を受賞した児童生徒の皆様を称える表彰式が行われ、仲村宗男教育長から受賞者に表彰状と副賞品が授与されました。

本展示会は期間中666名に展示を見学していただきました。改めて、作品を応募していただいた児童生徒の皆様、並びに審査委員の先生方へ深く感謝を申し上げます。

表彰式・展示会の様子



次のページでは、
教育長賞・金賞を
受賞した作品を紹介
するよ！



教育長賞・金賞受賞作品

小学校中学年（3・4年生）の部



「普天満宮」

新里 芽巳（普天間第二小学校）



「森の川」

宮里 匠（沖縄カトリック小学校3年生）



「野嵩スディバナビラ石畳道」

我如古 紗希（沖縄カトリック小学校4年生）

小学校高学年（5・6年生）の部



「大山大綱引き」

石川 七海（大山小学校）



「ふんしんせせらぎ通り」

宮里 莉々夏（普天間小学校）



喜友名の石獅子（クラニーグラー前のシーサー）

伊佐 優良（沖縄カトリック小学校）

中学生の部



「大謝名メヌカー」

兼城 紅奈（嘉数中学校）



「野嵩スディバナビラ石畳道」

中松 京花（嘉数中学校）



「羽衣伝説」

毛呂 朱音（沖縄カトリック中学校）

★審査委員の先生からの審査コメントを一部紹介★

- どの作品も、のびのび描かれていて、審査しながら笑顔になりました。高学年に負けないような観る人を惹きつける作品が多くありました。次年度もこれまで以上の作品を楽しみにしています。
- つなや石、葉などに色づかいや濃淡の工夫があり、見ごたえのある作品が多かったです。全体的に細部まで、綺麗に描かれていて、レベルが高いと感じました。
- 昨年度と比べ、生徒の思いが画面から伝わる作品が多数見られ、楽しく審査することができました。今後も地域にある文化財身近に感じながら、豊かに表現してほしいと思います。

来年度も作品をお待ちしてるルン！





みんなの進化展 一命はつながっているー

in 宜野湾～進化・深化・新化～

市立博物館開館 25 周年記念企画展の第2弾として7月 20 日（土）から開催していた「みんなの進化展一命はつながっているーin 宜野湾～進化・深化・新化～」が9月 23 日（月）をもって終了いたしました。この企画展は、沖縄県立博物館・美術館と共催し、昨年度話題となった「みんなの進化展～命はつながっている～」で展示した資料のほか、宜野湾市にまつわる内容を「深化」させることで沖縄の自然を紹介しました。

本企画展では、開催初日にオープニングセレモニーを実施したほか、期間中は、3,122 名の方に展示をご覧いただきました。

本企画展はこれにて終了となりますが、市立博物館開館 25 周年企画展は第3弾として 11 月2日（土）から「洞窟のナゾ展」が開催され、博物館の活動はさらに盛り上がっていきます。是非とも皆さまのご来館をお待ちしております。最後に、今回の企画展に際して共催を承認して下さった沖縄県立博物館・美術館、資料を提供して下さった、琉球大学博物館「風樹館」をはじめ多くの方々にご協力をいただきました。本当にありがとうございました！



オープニングセレモニー
（中央上側）
と展示の様子



夏休み期間もあり、学童などの
たくさんの人が展示を見てくだ
さったルン！



沖縄空手会館巡回展

沖縄空手の伝播

終了しました！



8月 1 日（木）から9月9日（月）まで、博物館展示ロビーにて、パネル展「沖縄空手会館巡回展沖縄空手の伝播」展を開催しました。これは、今年8月に沖縄コンベンションセンターで沖縄空手少年少女世界大会が開かれることもあって、（一社）沖縄伝統空手道振興会から開催の打診を受けて、当館でパネル展を開催しました。

会期中、8月 14 日（水）にこども博物館教室「沖縄空手を体験しよう！」、9 月 8 日（日）に仲村顕さん（沖縄空手道振興会研究員）の「沖縄空手の伝播」と題した市民講座を開催するなど、充実した内容でした。

夏休み期間中とあって、2,001 名の見学者が訪れ、空手の歴史や、戦前、空手家の一人として「本部猿（ムトゥブサーラー）」の異名をもつ、本部 朝基氏^{もとあき}とゆかりのある市指定史跡「本部御殿墓」（我如古在）についての紹介もあり、沖縄空手への理解を深めました。



オープニングセレモニー



パネル展、見学の様子



市民講座「沖縄空手の伝播」





今年度の「がちまやあ」は「^{ちし}地誌から見るぎのわん」というテーマのもと、近世（1609年～1879年）、近代（1879年～1945年）、現代（1945年～現在）の宜野湾はどういったところだったのか。全3回に分けて紹介しています。第2回は、「近代の地誌からみた宜野湾」です。

近代の地誌から ～『^{おきなわけん ち し りゃく}沖縄県地誌略』～

近代に入ると、沖縄以外の地域の人々の記した地誌、報告書、紀行文等が多く見られるようになります。今回はその中から、『^{おきなわけん ち し りゃく}沖縄県地誌略』を中心にみていきましょう。

◎『^{おきなわけん ち し りゃく}沖縄県地誌略』とは

1884（明治17）年に、当時の沖縄県師範学校が編集して発行された小学生向けの地理の教科書です。1888（明治21）年から県内の小学校の教科書として正式に採用されました。

内容は、総論・本島・^{なかがみ}中頭・島尻・属島・両先島・地名読例からなり、宜野湾については次のように記述されています（現代語訳）。

宜野湾間切は十四の村がある。東は中城間切に境を接し、西は海にせまり、南は浦添・西原の二間切に交わり、北は中城間切の一角を^う承けて北谷間切に連なる。土地は肥えていて物産の多いことは中頭地方の第一である。中頭役所は宜野湾村にある。那覇からの距離はおよそ三里七町（約13km）である。

普天間村に洞穴がある。^{ひろ}闊さはおよそ5、6間（約9～11m）。深さはおよそ7、8間（約13～15m）。洞穴の中に^{ほくら}祠がある。普天間宮という^{こうげ}香華を手向ける（お参りする）者が大勢つらなっている。洞の梁は^{はり}鍾乳石が^{しょうにゅうせき}凝結して柱状になっている。何百・何千あるかわからない。そのうちの短いものはまるで“つらら”のようである。実に南島中の珍しい眺めの一つである。

物産は、米、大豆、砂糖、^{ばんしよ}蕃薯、^{あい}藍、煙草等である。

当時の小学生向けの教科書ということもあり、宜野湾の地理的な概要を簡潔に説明しているね。



注目したい点①：14の村がある。

宜野湾間切は当時、近世以来の14ヶ村がありました。村の名称は具体的に記されていないので、参考として『^{りゅうきゅうはんざっ}琉球藩雑記』※という1873（明治6）年の記録から見てみましょう。こちらでも宜野湾間切の村は14としていて、以下の村の名が挙げられています。

宜野湾村 大謝名村 伊佐村 新城村 嘉数村 大川村 普天間村 神山村 宇地泊村 喜友名村 野嵩村 我如古村 謝名具志川村 安仁屋村

このうち、「大川村」は真志喜の古い名であり、「謝名具志川村」は大山のことを指します。『琉球藩雑記』は当時の琉球藩の提供した資料に依って編さんされたものですが、現在の真志喜を「大川」、大山を「謝名具志川」という地名で表していた例として挙げるができます。

※『琉球藩雑記』1873（明治6）年、当時の大蔵省がまとめた琉球藩に関する調査記録。

注目したい点②：土地が肥えていて物産が多い

戦前までは広い農地を持つ純農村であった宜野湾は、土地自体も肥沃で農業には有利な地域であったようで、「物産の多いこと中頭地方の第一である」とされています。

主な産物として「米、大豆、砂糖、蕃薯（サツマイモ）、藍、煙草等」が挙げられています。現在では藍や煙草の栽培は行われていないようです※（農林水産省「わがマチ・わがムラ」の宜野湾市のデータによる）。

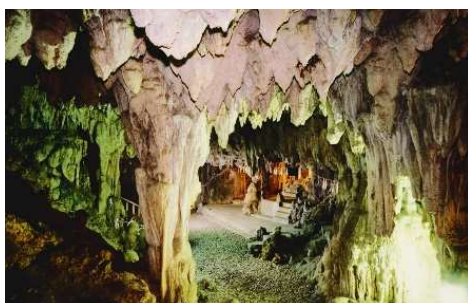
また、田イモについては記述がありません。現在、田イモの栽培が盛んな大山では、戦前米を中心に栽培しており、祭事における需要から、戦後に米の栽培から田イモ栽培に切り替わりました。※〈『沖縄タイムス』1965（昭和40）年9月29日より〉



1950年代の農業の様子『写真集ぎのわん』



大山の田イモ畑（1979年）



普天満宮洞穴の中の奥宮と

無数の鍾乳石

注目したい点③：普天間に洞穴がある

「地誌」というものの性格上、普天間の洞穴に触れずにはいられません。

普天満宮に大勢の人がお参りに来ていること、無数の鍾乳石が柱状に凝結していることを述べ、「奇観（珍しい眺め）」と表現しています。そして、その洞穴の寸法は、ひろさがおよそ 5、6 間（約 9～11m）で深さがおよそ 7、8 間（約 13～15m）とされていますが、現在の計測では、拝所付近が洞幅 15m、洞窟の全長は 280m以上であることがわかっています（『宜野湾市史』第9巻自然 134 頁）。

洞穴には奥宮（祠）があり、「参詣する人々が連なる」と、近世期と同様に篤く信仰されている様子が記されています。また、無数の柱状の鍾乳石があって、短いものは「つらら」のようだと、ごく簡単ではありますが、自然科学の視点での記述を思わせます。

普天満宮洞穴の周囲からは、リュウキュウムカシキョンやリュウキュウジカなどの化石も見つかっています！



今回は宜野湾について言及のある資料を見てみましたが、このほかにも、役人や教師等、外部からやってきた人々が記した報告書や紀行文で、実質的に「地誌」の内容を備えているものもあります。それは、沖縄が日本の一部となり、統治の必要性により沖縄をあらゆる方向から調査し記録したことによります。また、外部から沖縄に入った人々による知的好奇心により、詳細な記録が残された、ということもありました。しかし、その記録は、誰が、何を元にして、何のために書いたものか、ということを押さえておかなければ、その内容を正しく読み取ることはできません。この点には注意が必要です。

また、近代に入ると沖縄の人々も外の世界へと移動する機会が増えていきます。その移動した先の土地を沖縄の人々がどのように見て記録したか、ということもあわせて考えてゆきたいことです。

夏休み企画 こども博物館教室を開催しました♪

今年度も、8月に小学校3年生～中学3年生までの児童・生徒を対象に「こども博物館教室」を開催しました。こどもたちの夏休みの自由研究のきっかけづくりとして、また、学習の場としての博物館活動の充実を図ることを目的として毎年開催しています。今年度は、全3回で合計37名にご参加いただき、沖縄の歴史や文化について、モノづくりや体験などを通して楽しく学んでもらいました。



第1回 しっくい 漆喰シーサーをつくろう！ 8月3日（土）実施



北中城村和仁屋のしっくいシーサー振興会の先生方にご指導いただきながら、赤瓦の破片と漆喰を組み合わせて、世界に一つだけのオリジナルシーサーを作りました。「上手に作れて楽しかった。」「自分だけのシーサーが嬉しい。」「難しかったけど分かりやすく教えてくれた。」など、それぞれ自分の思うようなシーサーを作りながら、沖縄の伝統的な文化に触れる機会になりました。



第2回 沖縄空手を体験しよう！ 8月14日（水）実施



沖縄伝統空手道振興会主催で沖縄空手の体験教室を開催しました。博物館ロビーで展示していたパネル展「沖縄空手の伝播」の解説を聞いたり、空手家の先生方の力強い演武を鑑賞した後は、空手の型や瓦割りにチャレンジしました。初めての空手はとても難しそうでしたが、何枚も重ねた瓦割りが成功した時はとても嬉しそうでした。沖縄空手の歴史や体験を通して、沖縄の技と心を学ぶ機会になりました。



第3回 嘉数高台公園に残る沖縄戦の跡を見て回ろう！ 8月19日（月）実施



かつて日本軍の陣地があった嘉数高台公園にある、トーチカや陣地壕、慰霊碑などを見て回りました。「陣地壕をのぞいて楽しかった。」「いろいろ知れて良かった。」「他の戦争あとも知りたい。」など、嘉数高台周辺に残る戦争跡の見学を通して、沖縄戦での宜野湾の様子や嘉数の激戦など、戦争と平和について考える機会になりました。





市立博物館開館 25 周年

シン・展示資料が加わりました！

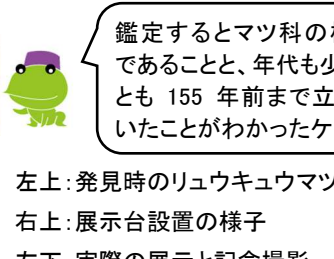


市立博物館は、今年6月に開館 25 周年を迎えました。2017（平成 29）年 4 月に常設展示室をリニューアルしましたが、あれから 7 年、この開館 25 周年を機に、新しい資料を加えて常設展示室や展示ロビーをバージョンアップしました。見ごたえのある、シン（新）・資料をぜひ、ご観覧ください！

シン・資料No. 1・宜野湾並松の樹根

2016（平成 28）年に普天間で建物建築中に地中から発見され、当館で保管していました。その後、市教育委員会文化課で年代測定調査や防腐加工を施して、この度、公開しました。

宜野湾並松は琉球王国時代に植付けられ、1932（昭和7）年に国の天然記念物の指定を受けましたが、沖縄戦でほとんどが失われました。並松に関する資料は、写真はありますが、現物の資料がない分、この樹根は、価値のある資料といえます。



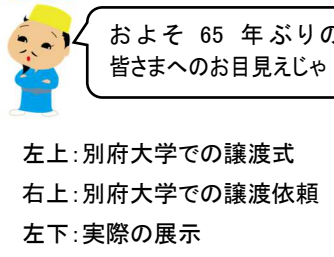
鑑定するとマツ科の植物であることと、年代も少なくとも 155 年前まで立っていたことがわかったケロ！

左上：発見時のリュウキュウマツの樹根
右上：展示台設置の様子
左下：実際の展示と記念撮影

シン・資料No. 2・大山貝塚の資料

昨年、2023（令和5）年に大分県、別府大学附属博物館が所蔵する大山貝塚の資料が当館に譲渡されました。1958（昭和33）年に、当時の琉球政府文化財保護委員会の多和田真淳氏と別府大学の賀川光夫教授が調査を行い、その遺物の一部が別府大学で保管されていました。大山貝塚資料は、宜野湾市には無かったため、2022（令和4）年、当館から譲渡を打診し、その念願が叶いました。

別府大学附属博物館の館長からも、「地元で活用、公開をしてほしい」とのコメントもあり、資料の一部ではありますが公開しました。



およそ 65 年ぶりの皆さまへのお目見えじゃ

左上：別府大学での譲渡式
右上：別府大学での譲渡依頼
左下：実際の展示

シン・資料No. 3・山田真山の平和祈念像原型の制作場からの床面壁画

山田真山は、糸満市摩文仁にある沖縄平和祈念像の制作者です。この祈念像は、普天間で制作されて、原型は今も残っています。

宜野湾市では、普天間飛行場周辺まちづくり事業の一環で、平和祈念像原型を整備、補修を行い、公開するプロジェクトを進めています。その原型のある建物のコンクリート床面には、何かしらの模様が描かれており、祈念像制作に関わるものと考えています。その床面壁画の一部をコンクリートごと剥ぎ取り、当館展示ロビーで展示しています。



この模様は雲かな…？

剥ぎ取る前の床面壁画

実際の展示

密着！学芸員実習 2024!!

学芸員実習とは、将来の学芸員（博物館で働く専門職）を目指す学生たちが取り組む実習です。今年度は8月7日（水）～19日（月）までの計11日間行われました。

ここでは、博物館のお仕事のリアルを体験した実習生4名の感想を紹介します。



新たに設置した宜野湾並松の樹根と一緒に記念撮影♪

◆ 高柳 遥陽（琉球大学）

博物館実習を終えて、並松資料の設置、資料確認調査で県博へ行ったり、フトッキアブや普天満宮の洞窟へ視察で行ったりして、1日1日が大変で充実していたことが多かった。一方で、大山貝塚の資料整理や寄贈資料登録、市史の在庫整理、IPM など日常的な業務も積極的に取り入れてもらい、実際の学芸員の業務により近い形で体験させてもらい、非常に貴重なものになった。

博物館の業務は朝が早くて体も動かすなど非常にハードなので、体力もつける必要があり、体力的にもそうであるが忙しさに負けない忍耐力も必要である。

◆ 眞喜志 悠音（琉球大学）

今回の博物館実習を通して、学芸員の仕事のやりがいや、大変な部分について学ばせていただきました。特に印象に残っているのは、教育普及に関する取り組みです。社会科見学の打ち合わせや、こども博物館教室を実際に体験させていただいたことで、学校との連携の難しさやこどものための展示、解説の工夫について知ることができ、とても貴重な体験となりました。

雑芸員と言われるように、専門外の仕事も多く任されることを身をもって学ばせていただき、博物館に求められる役割についても多くのことを学びました。

今後実習での経験を活かし将来に役立てたいと思います。

短い間でしたが、本当にありがとうございました。

◆ 仲里 有佑理（沖縄国際大学）

この11日間の博物館実習は、とてもいい勉強になりました。

特に勉強になった事は、日常生活の中でアンテナを張り続けるという事と、そうして得た情報を入館者や展示に活かす発信力が必要になるという事です。3日目に嘉手納町歴史民俗資料室の視察対応を見学させていただいたが、出前講座内の子どもたちの反応だけでなく、子どもがどう友達を作っていく、どういう話で興味を持つのかを話し合っていました。11月の企画展示に向けた他博物館への資料実見では、どのような資料があるのかを聞き出していました。細かな情報収集が質の高い展示や解説に繋がるのだと実感しました。

◆ 石原 昌朋（沖縄国際大学）

11日間の博物館実習を受けて、学芸員の仕事は博物館や収蔵庫の管理、来館者への展示物の説明だけでなく、学校での講座、こども博物館教室、嘉手納町の学芸員の視察対応、物を運ぶ作業、寄贈資料登録、歴史公文書の取り扱いなど、様々な仕事があり、学芸員は雑芸員と呼ばれる理由が分かりました。また、企画展1つでもここまでやるんだな、と学芸員の裏側を知ることができて良かったです。そして、大山貝塚資料の整理と、考古学に関する分野でも違う分野の学芸員が行う姿を見て、学芸員になることは様々な分野にも挑戦し、博物館の魅力を伝えることだと学びました。

宜野湾市立博物館

〒901-2224 宜野湾市真志喜 1-25-1

TEL：870-9317 FAX：870-9316

■入館料：無料

■開館時間：午前9時～午後5時（入館は午後4時30分まで）

■休館日：毎週火曜日、祝祭日、年末年始（文化の日、慰霊の日）は開館

